

# 米雇用統計、労働市場の底堅さが示される

## ポイント① 失業率改善、賃金も高い伸び続く

7日に発表された6月の米雇用統計では、非農業部門就業者数が前月比20.9万人増と市場予想（同23.0万人増）を下回りました。一方、失業率が3.6%と5月（3.7%）から小幅に改善したほか、平均時給も前年同月比4.4%増と市場予想（同4.2%増）を上回る伸びとなり、米労働市場の底堅さが示される結果となりました。

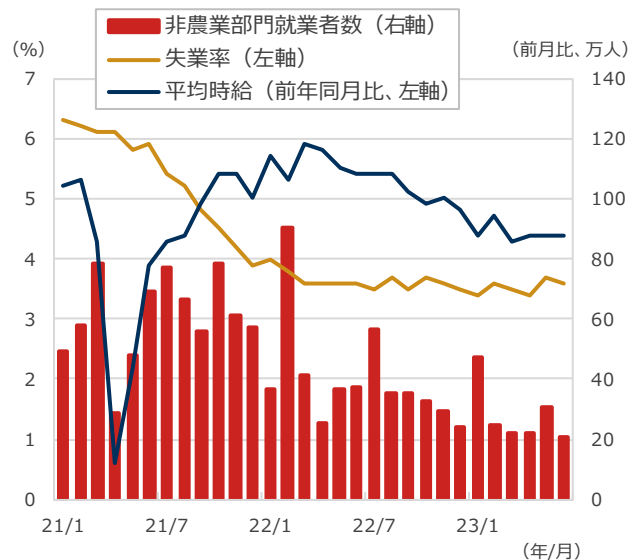
## ポイント② 明暗分かれる製造業と非製造業

また、企業の景況感を見ると、3日に発表された6月の米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数は46.0と好不況の分かれ目となる50を8か月連続で下回り、製造業雇用指数も48.1と軟調に推移しました。他方、6日に発表された6月の米ISM非製造業景況感指数は53.9と5月（50.3）から大幅に改善した上、非製造業雇用指数も53.1と2か月ぶりに50を上回りました。背景としては、欧米の利上げの影響等による世界景気の減速でモノ消費への需要が低迷していることや、コロナ禍後にコト消費が堅調となっていることが考えられます。

## ポイント③ 米金融引き締め長期化を意識

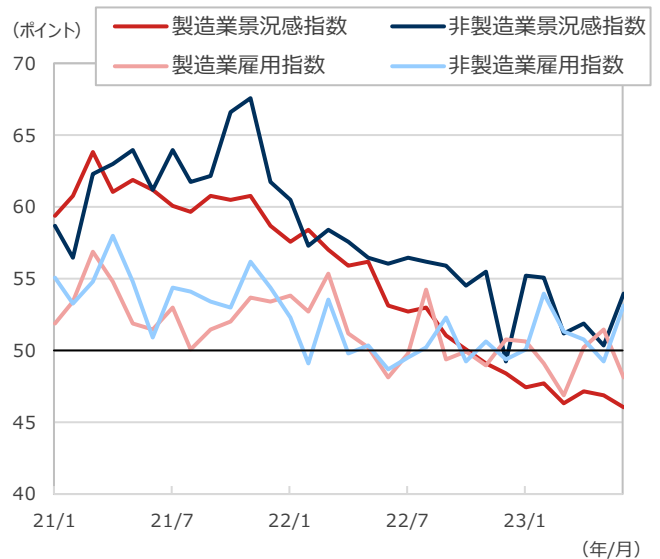
7日のS&P500種株価指数は前日比0.3%安となり、米10年国債利回りは同0.03%上昇（債券価格は下落）しました。底堅い米労働市場が賃金インフレの高止まりにつながるとの見方から、米金融引き締め長期化が意識されました。今後は12日発表の6月の米消費者物価指数など、引き続き米インフレ動向に市場の関心が集まります。

### 米非農業部門就業者数と失業率と平均時給



期間：2021年1月～2023年6月、月次  
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

### 米ISM景況感指数と雇用指数の推移



期間：2021年1月～2023年6月、月次  
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

**重要イベント**  
7月12日 米消費者物価指数 (6月)  
7月14日 米ミシガン大学消費者信頼感指数 (7月)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。